

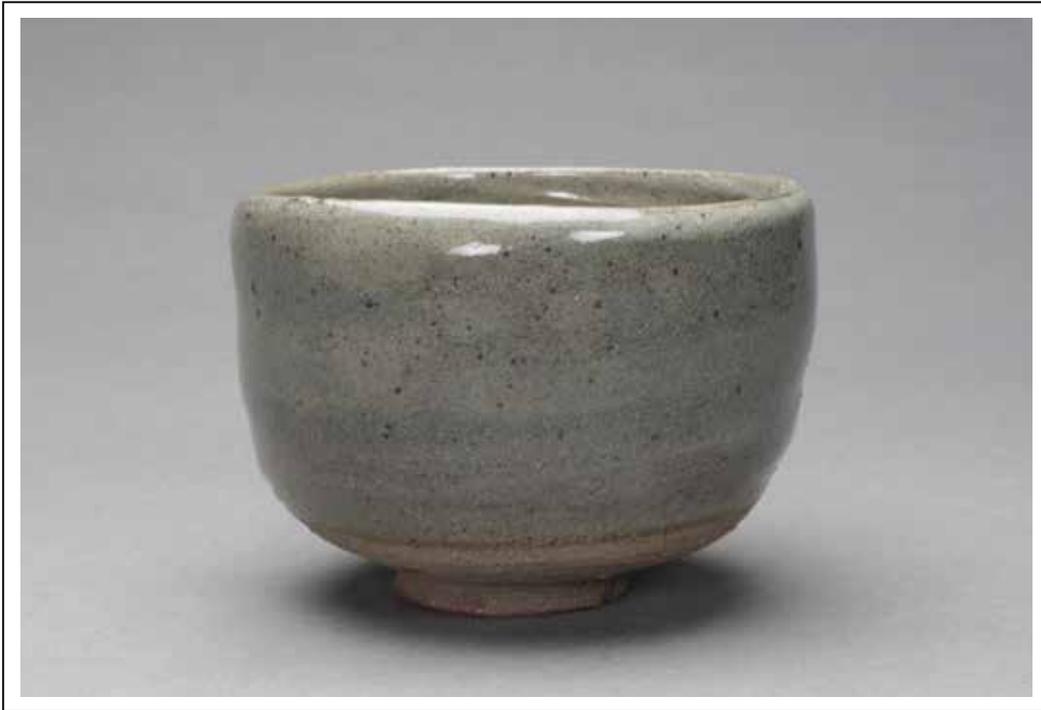
阿づまの光

A Z U M A N O H I K A R I



おほぞら
大空の
ひろ
ふかが
深さが
ごとく
いきむと
ぞおも
思ふ

【尊師 出口日出磨】



教主さまお作

灰釉茶碗

「琵琶の湖底」

【琵琶湖土+淡路島土+金竜海土/琵琶湖ヨシ釉】

妊婦面談を通して思うこと

直心会関東教区連合会常任委員 石井 宣江

私は市役所で出産前後の行政サービス説明を主に、妊婦と面談する仕事をしています。育児休業中の保健師代用で、パートのおばちゃんです。そこでは、私が臨床にいた40年前とはお産が随分と様変わりしていることを知らされます。

以前の高齢初産は30歳以上だったのが、今、40歳過ぎての初産は普通になってきました。若年妊婦は高校生以下だったのが22〜23歳でも若年妊婦で、妊娠届けの職業欄に主婦と書かれているのはあまりみかけません。

産後、保育園に子供を預けて仕事に戻るのが当たり前で、出産で仕事を辞めるといった人はこの1年で1人だけでした。今、子育てしているお母さんに、専業主婦をしている人は珍しいです。

今年、直心会発会から40年経ちました。女性の生活圏は家庭から職場に移り、高齢化のためもありますが、以前できていた本部や主会の直心会ご奉仕の人集めに近年苦心する原因と考えます。実際、瀬織津姫や聖地献労などのご奉仕も、今後はこれまで通りすることは出来にくくなると思います。大本の組織には年齢・性別で四部会（誠心会・直心会・青松会・青年部）がありますが、縦割り組織別ご奉仕ではない新しい形のご奉仕の在り方が必要だと思います。具体案を持っているわけではないのですが…。

今、子育てしているお父さんやお母さんの平均年齢は上がり、慢性疾患を抱えている人もたくさんいますが、皆さん子どものことを大切に思っています。初産の妊婦面談の半数は夫が同席し、乳幼児健診にお父さんが一人で子どもを連れてくることも珍しくありません。

どの働きにも、この人がやるものだというものはないと思います。誰がやってもいいと思います。皆が協力する、皆ができる、それが一番いいと思います。



み手代下付100周年記念 宣伝使・信徒の集いを開催

7月の東光苑月次祭は7月9日午前10時30分から、齋主・加藤道明祭務課長のもと執行され、220人が参拝したⅡ写真①。祭員は東京主会が、伶人は二絃の会関東支部、大本神論拝読は中島浩山梨主会長が担当。東光庵では、添釜がかけられ、千葉主会が担当した。



祭典後、参拝者は、大型モニターを通して、教主さまにご面会を賜った。その後、「み手代下付100周年記念『東光苑宣伝使・信徒の集い』」を開催。橋本伸作東京宣教センター長が開会あいさつを行い、その後、「み手代の権威と宣伝使の使命」救いの神器の活用を」と題して鈴木林太郎亀岡宣教センター愛善宣教部長が講話Ⅱ写真左。体験発表「宣伝使・信徒としての使命」では、群馬主会の朝倉剛太郎氏が「信仰の継承」について、茨城主会の椿リッさんが「家庭内宣教」について、松田行彦元大本部長が「宣教体験談」についてそれぞれ発表したⅡ写真②。その後、藤本和治大本インテルナツィーア所

また、2階講座室では、企画展「宣伝使の御用」救いの祈りとその形」を開催Ⅱ写真④⑤。聖師さま・歴代教主さまご下付のみ手代、宣伝使帽、宣伝使服、聖師さま命の宣伝使辞令、四代教主さま・教主さまお手織りのみ手代袋、み手代歌碑の拓本、宣伝使に関連した短冊、宣伝使服の聖師さまの写真パネル、宣伝使に関連したおししパネルなどを展示。
また1階ロビーでは、七夕行事、東京連合会直心会バザー、第50回南米本部夏期学級への送り出し梅干しバザーが行われた。



東光苑オンライン講座

9月25日(月) 19:00 ~

大本三代教主と竹田別院 ～信仰生活と芸術～

講師：田辺謙二(教学研鑽所主幹)



「信仰即芸術即生活」を掲げ、その教風を長年にわたり培ってきた大本三代教主・出口直日。その大事な教風が生まれるひとつの原点となった場所が大本竹田別院。そこで何があったのか、史実をもとにたどってみたい。

大本東京本部ホームページをご覧ください!

- 9月 東光苑祭典・行事予定**
- 10日(日) 午前10時30分
東光苑月次祭
長寿感謝祭・交通安全祈願祭
秋季合同慰霊祭
関東大震災百年犠牲者慰霊祭
 - 11日(月) 午後7時
全国一斉世界平和祈願祭
 - 16日(土) 18日(土) 19日(日)
EPA創立100周年記念
聖地・天恩郷参拝ツアー
 - 22日(金) 24日(日)
東光苑大道場修行
 - 23日(土) 午前10時30分
三代教主毎年祭(33年)
 - 25日(月) 午後7時
東光苑オンライン講座(配信)
講題 大本三代教主と竹田別院
信仰生活と芸術
講師 田辺謙二(教学研鑽所主幹)

自己を見つめる集い(鎮魂と浄書)

「自己を見つめる集い(鎮魂と浄書)」は6月25日、東京本部を会場に開催され一般を含む15人が参加した。受講者は、はじめに鎮魂の説明をうけ『信仰覚書』による鎮魂、続いて浄書の説明後『大本神論』の浄書を実践した。



『信仰覚書』による鎮魂



『大本神論』の浄書

● 離任あいさつ

前東京宣教センター愛善宣教課兼総務管理課員 **山田 豊**

やまだ 豊



6月26日をもちまして亀岡宣教センター勤務を拝命いたしました。2年2ヶ月と短い期間ではございましたが、関東教区、東北教区の皆さまには新任の私を温かく迎えていただき、またご指導ご鞭撻賜り誠にありがとうございました。

東京本部での経験を糧に、気持ちを新たに、ご神業ご奉仕に精進させていただきたく思います。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。